

さるの顔はなぜ赤い

大阪

あるばん、けものたちがにわか雨にいました。古いこわれかけた家があったので、そのひさしの下で雨宿りしました。

すると、家の中から、その主人がひとりごとをいっているのが聞こえてきました。

「ああ、雨もりが怖い。いくら、とらやおおかみがおそろしいといったって、雨もりとはくらべものにならない」

けものたちはびっくりしました。

「なんだって。おれたちは、とらやおおかみが何より強いって思ってたのに。もっと強い雨もりってやつがここにいるのか。にげなくっちゃ」

そのとき、けものたちの足音を、主人が聞きつけました。主人は、放してあった馬が帰ってきたのかと思って出てきました。けものたちは、

「雨もりだあ」とさけんで、先をあらそってにげだしました。主人は、馬をつかまえようと追いかけてきました。

みんなの一番後ろをさるが走っていました。主人は、馬のしっぽだと思ってさるのしっぽをつかまえました。さるは、力の限りにげようとしたので、顔がまっかになりました。しまいに、しっぽがぶつんと切れてしまいました。それでようよう、さるはにげることができました。

そのときから、さるの顔はまっかで、しっぽはみじかいままなのだそうです。おしまい。

原話…『奇談一笑』岡白駒・西田維則／赤志忠雅堂  
再話…村上郁